

労働者協同組合法  
成立記念作品

人は人のために働いて  
支え合い、  
人のために死ぬ。  
結局はそれ以上でも  
それ以下でもない。

これは人間の仕事である。

会場:東大和市民会館ハミングホール 大ホール 東京都東大和市向原6丁目1

中村哲は問う——“働く”とは何か、“仕事”とは何か、そして“平和”とは!

8/18(日)14:00~ 開場 13:30

# 医師中村哲の 仕事・働く ということ

語り◎室井滋 朗読◎塚本晋也

写真映像提供◎ベンチャー会/PM S

企画・提供◎日本労働者協同組合(ワーカーズユニオン)連合会センター事業団

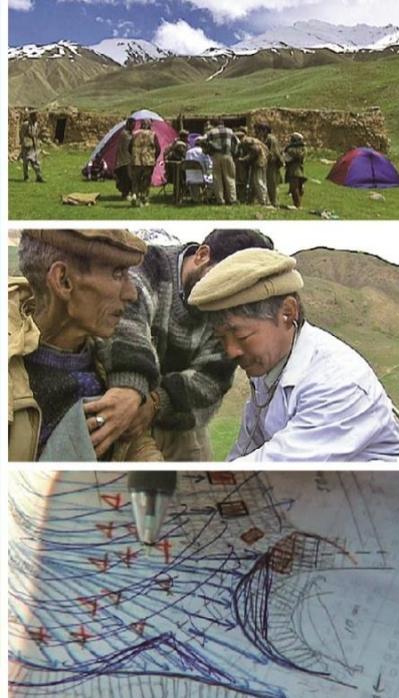
一般社団法人日本社会連帯機構

製作◎日本電波ニュース社 HD/16:9/カラー/47分



医師中村哲の  
仕事・働く  
ということ

アフガニスタンとパキスタンで、  
病や戦乱、そして干ばつに  
苦しむ人々のために  
35年にわたり  
活動を続けた男がいた。



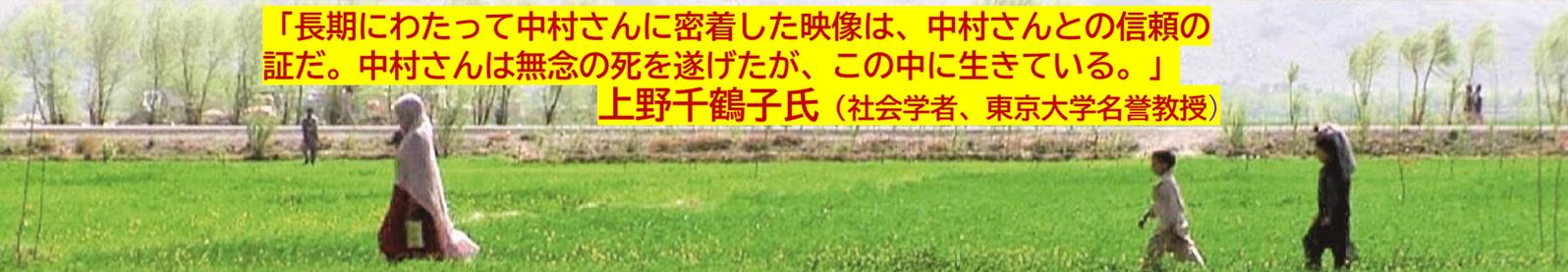
1984年に医療支援をスタートし、干ばつ対策用の用水路建設、農村復興へと活動を広げた中村哲医師、その歩みは35年に及んだ。中村医師はまず現地の言葉を覚え、現地の人々との対話を通じ、信頼を重ねていく。「私たちに確乎とした援助哲学があるわけではないが唯一譲れぬ一線は『現地の人々の立場に立ち、現地の文化や価値観を尊重し、現地のために働くこと』である」用水路建設では自ら設計図を引き、重機を運転し、泥にまみれて一緒に作業する。その作業には貧しさゆえにタリバンに参加していた農民も参加していた。「己が何のために生きているかと問うことは徒勞である。人は人のために働いて支え合い、人のために死ぬ。



そこに生じる喜怒哀楽に翻弄されながらも、結局はそれ以上でもそれ以下でもない」荒れ果てた大地は蘇り、農作物は実り、65万人の生活を支えている。  
親子で収穫し、家族で食事をする風景は眩しい。  
中村医師は言う「これは人間の仕事である」



「長期にわたって中村さんに密着した映像は、中村さんとの信頼の証だ。中村さんは無念の死を遂げたが、この中に生きている。」  
上野千鶴子氏（社会学者、東京大学名誉教授）



8/18(日)14:00～

30分前より受付/開場 \*申込制先着700人

申込 QR コード



会場: 東大和市民会館ハミングホール 大ホール  
(東大和市向原6丁目1 西武拝島線「東大和市駅」より徒歩9分)



参加費: 一般 1,000円 (学生・障がい者 500円、高校生以下無料)

上映(47分)後、講演「中村哲的平和の創り方」(仮)

高世 仁氏(フリージャーナリスト、最新刊『中村哲という希望』著者)

\*\*\*\*\* 【申込方法】 下記にご記入し FAX(042-649-8802)もしくはQRコード読み取りでお申込みください\*\*\*\*\*

お名前	参加時間	□ 8/18(日) 14:00～ (開場13:30)		
所属・お住まいの地域	年代	代	他観覧者名	
電話番号	mail	@		

FAX(042-649-8802)もしくはQRコード読み取りでの申込みができない方の申込 (問) ☎042-649-8801

主催: 労働者協同組合ワーカーズコープ・センター事業団

(受付時間: 平日 10:00～17:00)

共催: 映画『医師中村哲の仕事・働くということ』東大和上映実行委員会

(一社) 日本社会連帯機構

後援: 東大和市 東大和市教育委員会

